



「関西ワールドマスターズゲームズ2021」へ高まる期待

2019年にラグビーワールドカップ、2020年に東京オリンピック・パラリンピックと国際的なスポーツイベントが開催される日本。そして、2021年には生涯スポーツの国際総合競技大会である「ワールドマスターズゲームズ」が関西で開催されることが一昨年決定した。国際スポーツイベントの開催により、日本や関西の注目度は高まり、インバウンドのさらなる促進につながるものと期待されている。

ここでは、「関西ワールドマスターズゲームズ2021」の概要、推進体制、および大会開催を通じて広域観光振興をめざす当会の取り組みを紹介する。

「関西ワールドマスターズゲームズ2021」の概要

ワールドマスターズゲームズは、国際マスターズゲームズ協会 (IMGA：本部はスイス連邦ローザンヌ市) の主催により4年に1度開催される、おおむね30歳以上の成人・中高年の一般アスリートを対象とした世界最高峰の生涯スポーツの国際総合競技大会のこと。オリンピックの翌年に開催され、1985年に第1回大会がカナダ(トロント)で開催されてから2013年の第8回大会まで、延べ14万人以上の方が参加している。

このワールドマスターズゲームズを関西で開

催しようとする関西広域連合(連合長：井戸敏三兵庫県知事)や経済界が中心となり誘致活動を積極的に行った結果、一昨年11月、2021年5月に関西の広い地域を会場とする「関西ワールドマスターズゲームズ2021」がアジアで初めて開催されることが決定した。

ワールドマスターズゲームズには、競技資格や選抜基準もない。参加基準は30歳以上といった年齢のみであり、原則登録すればだれでも参加可能である。元プロ選手や元オリンピック選手も出場し、キャリアを超えて一般のアスリートと競技できる可能性がある点は、オリンピックにはない特長であるといえる。

第10回大会となる関西大会の大会期間は約10日間で、約30競技を男女・年代別(通常5歳ごと)に実施する予定。参加選手数は、過去最多となる5万人以上(海外から2万人、国内3万人)をめざしている。

「関西ワールドマスターズゲームズ2021」の開催を通じて、関西ブランドを国内外に広く発信するとともに、生涯スポーツやスポーツツーリズムの振興につながることを期待されており、スポーツコミッション関西によると、その経済波及効果は約140億円と試算されている。

推進体制について

2013年9月、自治体・経済団体・各地域の体育協会、学識経験者等で構成する関西ワールドマスターズゲームズ2021準備委員会(会長：井戸敏三関西広域連合長)が設立され、大会のPR、競技種目の選定に向けた調整やIMGAとの基本

合意書締結等が行われた。

2014年10月には、関西一丸となって大会を盛り上げ、機運を醸成する「関西ワールドマスターズゲームズ2021の集い」を開催し、経済界、行政、元オリンピック選手をはじめとするスポーツ関係者など約500人が集まり、関心の高さをうかがい知ることができた。


12月には、大会開催に向けた準備を本格的に進めるため、関西ワールドマスターズゲームズ準備委員会は発展的に解消され、一般財団法人関西ワールドマスターズゲームズ2021組織委員会(以下、組織委員会)を設立。組織委員会の会長には、関西広域連合の井戸敏三連合長と当会の森詳介会長が、そして、名誉会長には森喜朗氏(日本体育協会名誉会長)がそれぞれ就任した。12月20日に組織委員会の設立申請を公表した際には、森会長は「大会を成功させるには、関西一丸となって、特に経済界と行政が一体となって取り組む必要がある」「大会を盛り上げていく

〈表1 ワールドマスターズゲームズとオリンピックとの違い〉

	ワールドマスターズゲームズ	オリンピック
概要	<ul style="list-style-type: none"> ●原則4年ごとに開催されるマスターズ世代を対象とした世界規模の国際総合スポーツ競技大会。 ●2010年から冬季大会も開催されている。 ●国や地域を背負わず、だれでも参加できる。 ●ツーリズム・イベントとして認知されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●4年ごとに開催される世界のアマチュアのトップクラスを対象とした国際総合スポーツ競技大会。 ●各国・各地域から代表を選抜して参加する。
統括組織	世界：国際マスターズゲームズ協会(IMGA) 欧州、アジア、日本を統括する組織は現在はない。	世界：国際オリンピック協会(IOC) 日本：日本オリンピック協会(JOC)
近年の実施(予定)都市	[夏季] 2002：メルボルン(オーストラリア) 2005：エドモントン(カナダ) 2009：シドニー(オーストラリア) 2013：トリノ(イタリア) 2017：オークランド(ニュージーランド)	[冬季] 2010：ブレッド(スロベニア) 2015：ケベック(カナダ)
選手の参加条件	無条件、参加料を払った人全員	各国オリンピック委員会(NOC)が選抜
大会規模(コーチ等は参加者数に含まず)	●選手参加者数：95カ国、約29,000人。(2009年シドニー大会時)	●選手参加者数：204カ国、約11,000人。(2008年北京大会時)

出所：関西ワールドマスターズゲームズ2021準備委員会資料より作成

〈表2 ワールドマスターズゲームズの開催地と開催規模〉

開催年	開催国	開催都市	参加者数(名)	参加国数(国)
1985年 第1回	カナダ	トロント	8,300	61
1989年 第2回	デンマーク	ヘアニング、オールボー、オーフス(3都市開催)	5,500	76
1994年 第3回	オーストラリア	ブリスベン	24,000	71
1998年 第4回	アメリカ	ポートランド	11,000	101
2002年 第5回	オーストラリア	メルボルン	25,000	97
2005年 第6回	カナダ	エドモントン	22,000	89
2009年 第7回	オーストラリア	シドニー	29,000	95
2013年 第8回	イタリア	トリノ	19,000	107
2017年 第9回	ニュージーランド	オークランド	25,000(目標)	—
2021年 第10回	日本	関西 	50,000(目標)	—

〈表3 主な競技候補〉

コア競技(16種)
アーチェリー、陸上競技、バドミントン、バスケットボール、カヌー、自転車、ホッケー、ボート、サッカー/フットサル、オリエンテーリング、射撃、スカッシュ、ソフトボール、卓球、トライアスロン、ウエイトリフティング
オプション競技
野球(硬式・軟式)、ボウリング、ラグビーフットボール、ダンス/エアロビクス、ハンドボール、ゴルフ/グラウンド・ゴルフ、柔道、空手道、セーリング、水泳、テニス/ソフトテニス、綱引、バレーボール/ビーチバレーなど

ためには、大会の中身を充実させることとあわせて、できるだけ多くの人に大会を知ってもらうことが重要である」などの抱負を述べた。

組織委員会では、今後、さまざまな機会をとらえて大会のPRを行うとともに、競技種目および開催地の調整を行い、2016年10月までに決定することとしている。さらに、「関西ワールドマスターズゲームズ2021」を大々的にPRできる非常に大きな機会として、2017年にニュージーランド・オークランドにて開催される第9回ワールドマスターズゲームズ2017の場を活用し、例えばオークランドから関西への大会旗の引き継ぎ式の実施等を検討しているところである。



組織委員会発足時の会見にて
(左より順に、大西孝事務局長(兵庫県青少年本部理事)、森詳介会長(当会会長)、井戸敏三会長(関西広域連合長)、木下博夫事務総長(国立京都国際会館館長))

大会への期待と関経連の取り組み

「関西ワールドマスターズゲームズ2021」の開催によって、日本における生涯スポーツの普及と振興といった効果に加え、スポーツツーリズムを通じた地域の活性化、観光関連産業の拡大といった効果も期待されている。また、関西に集積するスポーツ関連産業に一層の注目が集まるなど、関西経済にとって大きな経済効果をもたらす可能性がある。大会を成功に導くためには、関西が一丸となり、特に経済界と行政が一体となって進めていく必要がある。

当会の広域観光研究会では、インバウンド振興を中長期的な関西の活性化の大きな柱にするため、具体的な活動のロードマップや関西における外国人旅行者数などの数値目標などを示した「関西広域観光戦略」を今年1月末に策定した。この戦略に基づき、2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、および2021年の関西ワールドマスターズゲームズをターゲットに、関西全体でインバウンド促進や関西ブランドの向上につながる活動を進めているところである。当会としては、今後も組織委員会と連携を深めるとともに、大会そのものの魅力を高め、大会の成功に貢献していく。

(産業部 坂本浩之)

〈表4 ワールドマスターズゲームズの関西誘致に向けた経緯〉

2013年 1月24日	関西経済界と関西広域連合との意見交換会において、関西経済同友会が、「ワールドマスターズゲームズ2021年大会」の関西誘致を提案。	
7月31日~8月5日	関西広域連合視察団(団長: 平井伸治鳥取県知事、門川大作京都市長)が、「ワールドマスターズゲームズ2013年トリノ大会」を視察。	
8月29日	関西広域連合委員会で、「ワールドマスターズゲームズ2021年大会」の関西開催をめざすことを決定。	
9月26日	「ワールドマスターズゲームズ2021年関西大会」準備委員会を設置。 カイ・ホルムIMGA会長に対し、申入書を送付。	
11月6日~13日	IMGAによる開催都市査察を受け入れ。	
11月10日	2021年のワールドマスターズゲームズの関西開催が決定。IMGAと「ワールドマスターズゲームズ2021年関西大会」準備委員会が基本合意書を締結。	
2014年 12月18日	「一般財団法人関西ワールドマスターズゲームズ2021組織委員会」を設立。	
12月25日	組織委員会とIMGAが開催地契約を締結。	

「関西ワールドマスターズゲームズ2021」の可能性

長ヶ原 誠 氏

神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授
関西ワールドマスターズゲームズ2021組織委員会常任委員



日本はこれまでに経験したことのないスポーツ・メガイイベントの隆盛期を迎えようとしています。ラグビーワールドカップ、オリンピック・パラリンピックはエリートスポーツ、そしてワールドマスターズゲームズは生涯スポーツにおける最高峰のビッグイベントであり、これらの大会が連続して同国で開催されるのは史上初です。トップアスリートの卓越性を「観る」ことによって得られる感動を、次はいかに市民レベルで「する」生涯スポーツの文化にまで拡大し将来の躍動感につなげていくのか。スポーツ・メガイイベントのトリを飾る歴史的アンカーとして、また、生涯スポーツの文化振興のスターターとしての役割を関西が担っているといえます。

ワールドマスターズゲームズは、原則30歳以上であれば世界中のだれでも複数種目にエントリーできる唯一の世界オープン総合競技大会です。この大人の夢舞台を創り上げ、アジア初となる関西での第10回記念大会が実質的に歴史的大会となることを世界中が期待しています。この第10回大会の開催地選定では、大会主催団体である国際マスターズゲームズ協会(IMGA)がこれまで採用していた複数の立候補都市によるビidding(入札)方式から、開催能力をもつベストな主催地に開催を呼びかけていく交渉方式に変更し、関西広域連合に対して開催の可能性が打診されました。これは以前に滋賀県が第7回大会の誘致活動を行ったことがきっかけで、大会を開催する理想の地として関西がクローズアップされたものです。

関西圏内には、半径150km圏内に開催候補種目の競技大会の開催が可能な340カ所ものスポーツ施設が集積し、世界的観光都市として名高いエリアが多く、約30万人を収容できる約2,300軒もの宿泊施設や国際空港を含めた8つの空港と各地を結ぶさまざ

まな交通手段が充実しています。海外では1つの州に匹敵する地理的範囲の中で、これだけのスポーツ・観光資源、交通網がコンパクトに集約された地域はなく、スポーツツーリズムの要素を持ちあわせるワールドマスターズゲームズには関西は理想的な開催地となります。また、圏内には世界的にも認知されたスポーツ、健康、観光、国際、ボランティア、エンターテインメントにかかわる文化・産業・サービス資源に恵まれ、大人たちのスポーツパフォーマンスとスポーツ旅情をもてなすための総合力を有しています。今後検討される競技会場は、開催地独自の各資源を融合させながら、大会運営を契機として開催競技種目を重点化し成熟した生涯スポーツ拠点(メッカ)の形成につなげていく将来ビジョンを描くことも可能でしょう。

ワールドマスターズゲームズは主催地での地域・経済活性化に加え、大会参加に向けて個人の生活性化と連携・組織活性化をもたらします。過去の大会でも、家族・三世代チーム、市町村チーム、社会人チーム、地域・民間・企業の各スポーツクラブチームや、同窓会チーム(学校、大学、企業のOBOG)、および多国籍チームなどが大会出場に向け結成された事例も多く見られました。また元プロ・オリンピック・パラリンピック選手も参加しており、わが国でも1964年の東京五輪レジェンド選手や他の五輪大会に出場したオリンピック、さまざまな種目の元プロ選手やチーム出場により、一般アスリートと競技を交えるドリームマッチを実現することも可能でしょう。2021年、世界各国から集結した5万人のマスターズ世代のエネルギーが関西各地に満ちあふれ、その姿がレガシーとしてユース世代の将来の躍動感につながっていくことを願っています。